

前川 大滝沢登り山行報告書

(山域) 吾妻連峰 前川大滝

(コース) 滑川温泉 (駐車場): 入溪～F1～滑川大滝～吊橋～二股～登山道～滑川温泉

(日時) 8月6日 (土曜日)

(天候) 快晴 (雲一つ無し)

(参加者) CL: 内堀 (記録)・小宮山

(山行タイム) 滑川温泉 7:15～滑川大滝 8:00～吊橋 11:00～登山道 13:00～滑川温泉 15:00

(山行報告)

私は木曜日から東北の二戸地区出張で、金曜日夜帰宅からの山行である。事前に荷物をまとめ小宮山さんをお願いして回収して頂いた。そのため、矢切駅で待合わせして外環道の三郷南ICから乗り、東北道を経由して福島飯坂を目指す。ICを降りてコンビニで酒・明日の朝食・行動食を購入する。峠駅に向かい、テントを張り軽く宴会を行い、就寝した。車が5・6台あり今まで来た中で一番の賑わいであった。翌朝 5:20頃起床して朝食を済ませ取りあえず、滑川温泉に向かい、沢準備を整え出発しようと思った矢先に、滑川温泉の従業員に見つかり宿泊以外の車は止めで欲しいと言われ、泣く泣く移動する。早く出発した2台はラッキーであった。

橋を渡り降りたらすぐ入溪ポイントである。入り口で1パーティと合う。その先はF1が表れ、滑川温泉で2台駐車したパーティを発見。ここでロープを出していたので、横を抜け通過する。ここで、ロープを出していると先が長そうである。結果的には、初めのグループ・F1であったグループとは合わなかった。入浴後でも現れず大丈夫だろうかと心配した。

ゴーロ帯が表れ無事通過すると美しいナメ床が表れる。スラブ壁を通過すると、滑川大滝が表れる。何時見ても大きい。ここで、休憩を取る。高巻き用道もしっかり付いており、一步一步進む傾斜が増し、木を頼りに進むとようやく登りは終了して、トラバース道に出る。

1本目・2本目共にロープを出して安全確保して無事通過する。大滝の真上に出て小滝を何個か登ると、1個目の枝沢 (ネコ沢) を通過、2個目の枝沢 (ホラ貝沢) を通過、滝を登るのに中央が易しいので、釜を泳ぎ前進びしょ濡れになりながら、滝を上がった。小宮山さんは泳ぎが得意で2本目以降の釜泳ぎは任せ、私は後を付いて行きました。幅広滝では灌木を利用して、無事通過、ヤレヤレと思いながら進みとゴーロ帯があり大岩を通過、ナメ床の先から吊橋が見えた。もうそろそろかなと思い進むと、二股 (枝沢) に出る。ここでようやく昼食休憩を行う。

8:00以降休憩も取らず只ひたすら歩き続けと流石に疲れが出てくる。小宮山さんは疲れ知らずで、まだ大丈夫との事、スイス登山組は元気な証拠だね。マッターホルン登頂した力は、まんざらでなさそうである。(富樫、佐藤、宮城、小宮山さん全員、初登頂しました。おめでとう。)

昼食後は枝沢を進みナメ滝を3つ過ぎると、赤テープ発見。左側の登山道を発見する。

登山道は少し荒れていて道は泥濘状態なため、沢靴のまま進む。そのまま進んだつもりであるが左側に行ってしまう、山道を進むが違うことが判り引返し、登山道を進む。途中、鉄塔がある場所 (滑川大滝が良く見える場所) にて、沢靴を脱ぎ、休憩を取る。

その先、歩くと登山道から滑川温泉が見え、今日の終わりを告げる。何時ものように滑川温泉手前の吊り橋を渡る登山道に向かうが、「通行止めになっていた。」良く見ると吊橋の途中で板が抜け落ちたようであった。しかたなく、下に向かうが渡渉しなければならず、ここで濡れるのは嫌だと思い、ジャンプ一発成功し駐車場に到着した。到着後は、滑川温泉で汗を流し体中に湯の花をつけ帰葉した。出張帰りの山行であり、帰りは猛烈に睡魔が襲い助手席で爆睡してしまった。



